

皆さま、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

本日の主日の福音は、イエスが安息日にカファルナウムの会堂で説教する姿を示します。カファルナウムはガリラヤ湖畔の小さな町で、ペトロとその兄弟アンデレもこの町に住んでいました。人々を驚かせた教えに続いて、「汚れた霊に取りつかれた男」の解放が行われます。この男はイエスを「神の聖者」すなわちメシアと認めます。イエスの評判はたちまちその地方の隅々にまで広まりました。イエスはこの地方を、ことばとわざをもって、すなわち、神の国を告げ知らせ、あらゆる種類の人々の病気をいやしながら巡回していたからです。

イエスの弟子たちの私たちは、イエスが権威をもって伝えた新しい教えを、イエスがそこにおられるという確かなしるしとともに、世界中に伝えます。人間にとって、権威はしばしば所有と支配と成功を意味します。しかし神にとって、権威は奉仕とへりくだりと愛を意味します。それは、イエスの考え方へと歩み入ることを意味します。

イエスの福音はいのちのことばです。福音は心を変え、生活を変え、悪への傾きを善への歩みに変えます。福音には私たちを変える力があります。したがって、この癒しの力を世界中に広げ、宣教する者、みことばの使者となることがキリスト者の務めです。だからこそ、日々、福音に親しんで行きましょう。福音を毎日、読んで、その中の一節、一句について考えて行きましょう。神のあわれみこそが、わたしたち人類を解放し、いやし、愛の力をもってすべての恵みといつくしみで満たしてくださるからです。

